

# FD セミナー報告書（福岡会場） 1 日目

2025 年 11 月 20 日

作成：岩村 聡志

## 1. 開催概要

2025 年 11 月 18 日全国専門学校教育研究会主催の FD 関連紹介セミナー「専修学校における学校評価ガイドラインの改訂について」（1 日目）が開催されました。  
本セミナーは文部科学省委託事業の一環として行われました。

以下 2～5 に関しては東京会場と同じ内容。

## 2. 開会挨拶と研修の目的（泉田委員長より）

## 3. 文部科学省からの説明（専修学校をめぐる動向と法改正）

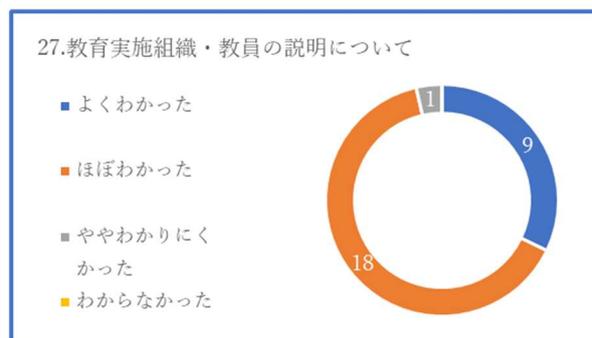
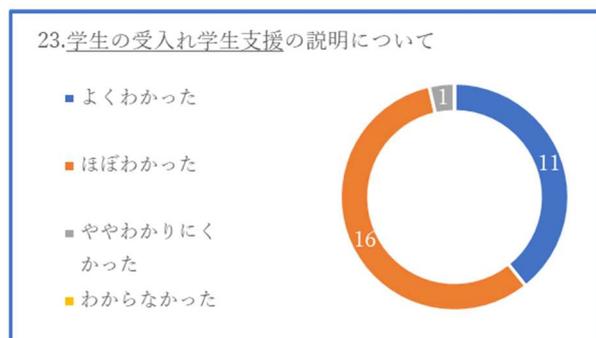
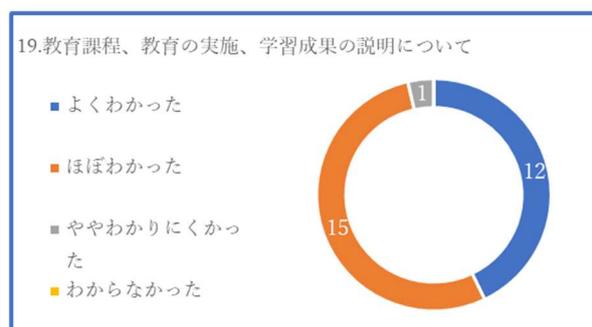
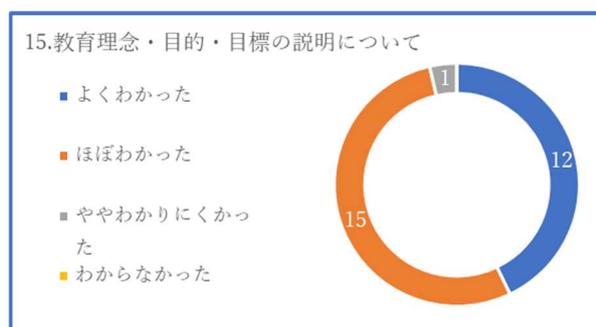
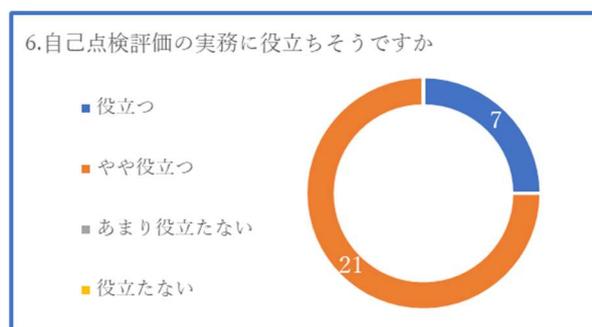
オンラインにて文部科学省専修学校振興室：室長補佐の塩屋仁史様

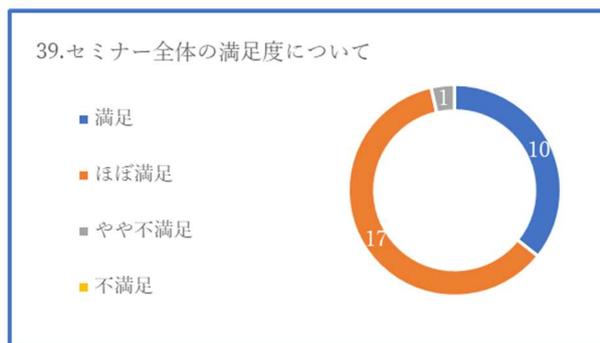
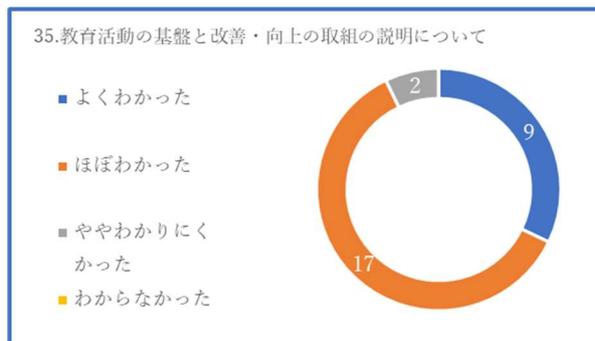
## 4. 自己点検評価運用ガイドラインに関する研修

## 5. 自己点検評価グループワークと総括

## 6. アンケート結果

- ・アンケート回収率 100%（参加者 28 名、回答 28 名、未回答 0 名）
- ・アンケート項目は全 42 項目
- ・主な回答は以下の通り





## 7. セミナー全体に関する受講者の感想

内容面への満足度は非常に高く、特に「他校との意見交換」や「具体的な手順の理解」に価値を感じた声が多い。一方で、時間配分には若干の改善余地が示唆された。いずれの領域も9割以上が「よくわかった・ほぼわかった」と回答しており、説明の分かりやすさは概ね高く評価されている。

満足度の理由（自由記述の主な内容）

- ・「グループワークで他校の悩みや取組みを共有できた」
- ・「丁寧に教えていただいた」「今後どのように評価体制を整えるかイメージが湧いた」
- ・「第三者評価の手順が理解できた」

一方で、

- ・「時間設定にもう少し余裕があればよかった」といった、進行ペース・時間配分への要望もみられた。

また、多くの受講者が、セミナー内容を踏まえれば「自己点検評価を実施できそう」と回答しており、自己点検評価への心理的ハードルは比較的減していると考えられる。

「評価のポイント」と「用語・定義」の理解が課題として挙がっており、評価基準や用語の解釈をより具体的な事例・サンプルとあわせて説明することが、今後の支援ポイントと考えられる。

1日目のまとめ

- ・満足・ほぼ満足が全体の約96%と、セミナー全体への評価は非常に高い。
- ・各領域の説明も9割以上が「よくわかった・ほぼわかった」と回答しており、理解度もおおむね良好。
- ・一方で、「内部質保証の体制づくり」「評価のポイント・用語の理解」「エビデンスの整理」「部署間の連携」「教育課程の再検討」など、実務運用の段階での課題が浮かび上がっている。

## 8. セミナーの様子



以上

# FD セミナー報告書（福岡会場） 2 日目

2025 年 11 月 20 日

作成：岩村 聡志

## 1. 開催概要

2025 年 11 月 19 日、全国専門学校教育研究会主催の FD 関連紹介セミナー「専修学校における学校評価ガイドラインの改訂について」（2 日目）が開催されました。

本セミナーは文部科学省委託事業の一環として行われました。

以下 2～3 に関しては東京会場と同じ内容。

## 2. 講演内容：学校関係者評価委員会の運用ガイドライン

## 3. グループワークと評価結果の取りまとめ

## 4. アンケート結果

- ・アンケート回収率 89.3%（参加者 28 名、回答 25 名、未回答 3 名）
- ・アンケート項目は全 25 項目
- ・主な回答は以下の通り

※二日目は時間の都合で会場での回答に限らず、別途ご回答いただくこととしたため、未回答（3 名）が発生いたしました。



## 5. セミナー全体に関する受講者の感想（アンケート自由記述より）

### (1) 他校事例の共有・意見交換が有益

他校の状況・悩みを知れることが、安心感や実務のヒントにつながっていました。

「他校の状況について、意見交換」

「他校の具体的な事例」

「今後に役立つ多くの事例を聞くことができ、大変ありがたい」

### (2) 内容が明快で、曖昧だった点が整理できた

ガイドラインや説明の構成により、理解が進んだという声が見られます。

「明快でわかりやすかった」

「曖昧だったところが、明確になった」

「例題で頭の中ですぐに整理できた」

### (3) 自校での“次の行動”が見えた（見直し・活用・準備）

学んだ内容を「自校でどう使うか」に結び付けるコメントが多く、実装志向が強い傾向です。

「次年度へ向けての見直し、エビデンスの準備について理解できた」

「公表内容を保護者会や高校訪問で活用する」

「今後、取り組みにむけた具体的な行動ができそう」

### (4) 心理的効果（励み・安心感）

内部質保証・評価業務に対する“孤立感”や“疲れ”が軽くなったという声がありました。

「評価疲れを感じていたが…安堵した」

「他校の状況や悩み…共有できたことは励み」

## 改善要望・運営面でのコメント

### (1) 進行がタイト／議論・ワーク時間を増やしたい

「スケジュールがタイトで多少の消化不良」

「グループワークの時間がもう少し欲しい」

説明パートを少し圧縮し、ワーク・質疑・共有の時間を厚めにすると満足度の伸びしろが大きくなる可能性がある。

### (2) 交流の場（懇親会など）を求める声

「懇親会などが有ると、もっと意見交換ができる」

公式の交流枠（任意参加の情報交換会・名刺交換タイム等）を用意すると、他校事例共有の価値がさらに高まる事が予想される。

### (3) 事前連絡（資料案内メール等）の改善

「事前資料の案内がメールでいただけていません。」とのコメントがあり、送信先リストのチェック、リマインド、当日配布 QR など“二重経路”にすることで取りこぼしを防げる。

### (4) さらに深掘りしたいテーマ

「第三者評価について詳しくききたい」

「第三者評価」「評価結果の公表・活用」「委員会運営の具体」など、テーマ別の深掘りも有効と思われる。

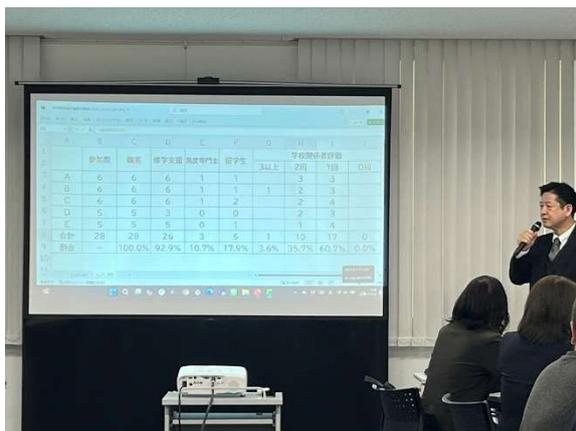
## アンケートの総括

受講者は「他校事例×具体例×自校への落とし込み」に大きな価値を感じています。

一方で、価値が高い分だけ「議論時間の不足」「交流機会の不足」が課題として浮上しています。

また、「事前案内の確実性」を上げることで、満足度の向上が見込める。

## 6. セミナーの様子



以上